争 6.5.27 2814

警秘第二

昭和

内務大臣

社会

五反田

要旨……

標記争議前

一、従業員側

(1) 五月十

(2) 五月十

[redacted]

守雄

(第二報五月二十日迄)

名ハ検挙サル

ノ状況左記ノ通

ノ寄贈ヲ要ク

取トシストライ

(別記三)

民衆の娯楽機関の活動写真館に於て嚇す観衆の皆様に不快の念を抱かしめたる彼職に恐懼の至りに存じて居ります。民衆の娯楽機関の一日も忽せられざる為め争議の要求する条件を入れ将来の復活を致要求の座前を承認し以て解決とするにも不拘 経営者は口実に得手勝手な暴利を貪らし我等らに争ひを起し今やます議団を作り一同に能らあらゆる正義に向ふ双なく里程は何れ明白となることと信じます。今度映画写真も経営者の営利主義に偏し我に今迄は帝王論とし一映画を提供致し弁士、楽士とも技のみ選定出場せしめ観覧料の如き暴利を図し度入し然るを良く相務め秩序正しく取致し心地よく見易く開の臭く三相入民衆娯楽機関を一層発揮せしめ御観覧を御待ち申して居ります何卒一層一層前御来場御観覧の栄を賜り度く偏に願ひ候

活動常設 五反田館

(別記四)

再び親愛なる全市民諸君に訴ふ!

累年に亘る加資の職員に対してストライキを宣言して以来吾々は茲に四日余りどの斗争を続けて来た。経営者は加資の横暴を全市民諸君の進ワクもかへり見ず飽くまで争議を長引き自己の利益のみを追はんとしてゐる。親愛なる市民諸君!従業員の家族を議死の淵に叩き落し吾々の生活権を奪はんとしてゐる。見よ!!加資の暴虐振りを。日夜ドク々と言ふ様に物価を使ひ何ら正当な理由に依つて事件経営者の命をとらうとしてゐる者はソワソワしくも正義を口にし全市民を欺き沿革的同情を得やうとしてゐる。経営者は自分の利益の為めに正義や同情を無視にして労働者家族の生活権を奪つて来たのだ。市民諸君!諸君の周囲を見よ!如何に多くの餓死の者に何程し生活を資本家共が日夜繰り返し華の限りを尽してゐるか。諸君の生活はどうだ。減給減俸、職首等其の不服争諸君の暮らしに破壊されんとしてゐるのだ。これは資本家共が自己の利益をおすゝめ動いて居るからなのだ。経営者は我々全労働者を圧迫し生活権を奪はんと知らぬ者であらう。いつまでも吾々を眠らせまいとしてゐるのだ。親愛なる市民諸君!経営の手先となつて吾々のこの正義の戦ひに無用なる妨害を与へられんことをお願ひします。若しもかゝる事があらうとも生活権ヨー撲のためにはアクマデ戦ふものであります。来ず此の機会に五反田館へ行くな!労働者市民は加資の活作を葬れ!

関東映画従業員組合 五反田館 共同争議団